

## 鳴門市孫崎灯台地先で漁獲された白いカサゴ

海洋資源担当 和泉 安洋

Key word; アルビノ, カサゴ, 白いカサゴ, 突然変異

平成14年1月21日(月)の昼すぎ, 堂浦漁協の漁師, 大塚さんが「めずらしい魚がとれた」と来場してくれました。見てみると, ほんまにめずらしや, 全長 20cmの白いカサゴでした。これは, 生まれつき色素を作るための酵素が欠けているもので, 正常な遺伝子の突然変異により発生するアルビノ(先天性色素欠乏症)と呼ばれているものです。動物は通常メラニン色素を持っており, この色素によって体表や毛の色が決まります。アルビノとは, このメラニン色素が全く無いか, 極端に少ないという特徴をもつ動物のことです。



白っぽいピンク色に見えますが, 白い色素があるわけではありません。細胞の色に加えて, 血管の色がピンク色に透けて見えているものです。

1月20日(日)に孫崎灯台の北北西約200mの沖合い(水深約65m)にて, カサゴこぎ釣り漁で漁獲されたそうです。「45年、漁師やっとならけど, こんなん釣れたんはじめてや」とのことでした。カサゴは主に岩礁域や沿岸のテトラポットに住み, 体色を生息場所周辺の岩礁や海藻の色と同化させ, 自らを外敵から保護しています。また, カサゴは魚食魚ですが, スズキやハマチのような遊泳能力はなく, 岩礁の割れ目などに身をひそめ, 目の前を通りすぎる小魚やカニやエビなどを食べています。真白い体色では, 目立ちすぎて外敵から狙われやすいし, また, 餌となる小魚やカニなども警戒して近づいてこないでしょう。さらに, 一般にアルビノ個体は体が弱く, 自然界では長生きできないと考えられています。このような, 逆境の中, よくここまで成長できたものだと感心します。